

特殊検査室での安心安全な検査を目指して

特殊検査室看護師長 角田 多喜子



特殊検査室には看護師13名・看護補助者1名・事務員1名が配置されており、医師や放射線技師、検査技師など多職種で協働しながら検査全般を担っています。

患者さんの苦痛を最小限に、かつ安心安全に検査が遂行できることを最大の目標に掲げて取り組んでいます。

携わる検査は、心臓カテーテルを始め内視鏡・超音波・IVR・造影CTなど多岐に渡ります。2018年度の主な検査実績は、心臓カテーテル検査413件、内視鏡検査4,655件、超音波検査5,880件となっております。

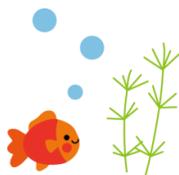
常に質の高い看護を提供するには継続教育が

重要です。看護師それぞれの習熟度に応じた支援を行い、最終的には緊急検査や特殊治療の対応ができるように努めております。

現在、当室配属の看護師のうち6名は内視鏡技師免許を併せ持っており、より専門的な知識・技術の習得に励んでいます。

病棟と違い、一人ひとりの患者さんとの関わりが「検査時間」に限られておりますが、「無事に終わった。思っていたより随分楽だった。」と感じて頂ける環境を提供し、「病氣」に立ち向かう患者さんに寄り添える看護師でありたいと考えております。

今後も求められるスペシャリストを目指し、研鑽してまいります。



選択できる働き方 — 介護福祉士との協働 —

6N病棟師長 山口 美紀



2018年に働き方改革関連法が成立し、日本看護協会でも同年4月に「看護職の健康と安全に配慮した労働安全衛生ガイドライン／ヘルシーワークプレイス（健康で安全な職場）を目指して」が公表されました。

チーム医療の推進や働き方の多様化など、施設が取り組む課題はさまざまである中、当院は2016年2月から介護福祉士の雇用に取り組んでまいりました。

今では介護福祉士は21名に増員され、ICU・HCUを除く全部署に配置するに至りました。

介護福祉士の採用当初は「夜勤が出来ること」としていた雇用条件を見直し、今年度より

- ①夜勤と遅出（常勤） ②早出と遅出（常勤）
 - ③日勤のみ（臨時） ④パート勤務
- の4つの選択肢を設けております。

介護福祉士が自分のライフスタイルに応じた働き方を選択しつつ、看護師・看護補助者と協働し、培った介護の専門知識と技術を活かせる職場環境の確立を目指しております。

治療や療養をサポートする「看護」と日常生活を支援する「介護」を連携させ、入院から在宅へと、スムーズな生活環境の移行が重要と言えます。

ヘルスケア支援者として、医療チームにおける役割をそれぞれが発揮し、貢献してまいります。

